

みどりの戦略の危うい点は何か

- ①有機農業の推進で、農薬や化学肥料を使う慣行農業の重要性の認識を低下させる。
- ②バイオテクノロジーの重要性、推進を遅らせる。GM作物の拡大はSDGsに大いに貢献してきたのに、それにブレーキをかける恐れがある。
- ③学校給食のオーガニック化で子供たち、栄養士など若い人たちの「食の安全観」「リスク感」にゆがみを生じさせる。
- ④有機農業の推進は食料の確保をおろそかにし、食料安全保障を危うくする。
- ⑤有機農業は本当にCO₂を減らすのかという学術的な議論が必要。
- ⑥脱炭素は「待ったなし」の脅迫観念が恐るべき破壊的な政策を突如生み出す恐れ。オランダの牛30%削減はその典型。

「みどりの食料システム戦略」では、2050年までに目指す 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現

1.化学農薬の使用量をリスク換算で50%低減

2.化学肥料の使用量を30%低減

3.耕地面積に占める有機農業の取組面積を25%、100万haに拡大

4.2030年までに持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現

5.エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大

**6.ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率
100%を実現 等**

世界全体と日本の農林水産分野の温室効果ガス（GHG）の排出

- 世界のGHG排出量は、520億トン（CO₂換算）。このうち、農業・林業・その他土地利用（AFOLU）の排出は世界の排出全体の23%。（2007-16年平均）
- 日本の排出量は11.50億トン。農林水産分野は5,084万トン、全排出量の4.4%。（2020年度）
 - * エネルギー起源のCO₂排出量は世界比約3.2%（第5位、2021年（出展：EDMC/エネルギー経済統計要覧））
- 農業分野からの排出について、水田、家畜の消化管内発酵、家畜排せつ物管理等によるメタンの排出や、農用地の土壌や家畜排せつ物管理等によるN₂Oの排出がIPCCにより定められている。
- 日本の吸収量は4,450万トン。このうち森林4,050万トン、農地・牧草地270万トン。（2020年度）

■ 世界の農林業由来のGHG排出量



■ 日本の農林水産分野のGHG排出量



①農水省東海農政局が有機食品を選ぶ紙芝居作成

2種類のニンジン、**高くても、
環境によい**ニンジンを**選ぼう**

内容は有機農業を正しく理解していないと私が記事で指摘。東海農政局は知らぬ間に一部を訂正。前は「ちっちゃくてふぞろいなのに、なぜかねだんの高いにんじん」→後は「ねだんの高いにんじん」

かみしばいをつくりました！

子どもたちに「地球にやさしいおかいもの」を知ってもらいたくて、農政局の職員が紙芝居を作りました。

◆ 「2しゅるいのにんじん」

「2しゅるいのにんじん」あらすじ

小学生の舞ちゃんとお母さんは夜ごはんのシチューに使う野菜を買いに出かけました。
お店にあったのは、いつものにんじんと、ねだんの高いにんじん。
2しゅるいのにんじんは、なにがちがうのかな？このマークはなに？
「**地球にやさしいおかいもの**」について みんなで考えてみましょう！



紙芝居の変更2つめ

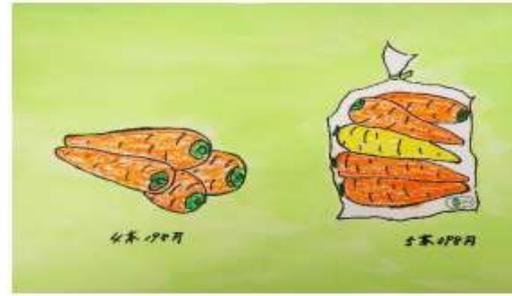
◎前のバージョン＝「198円のにんじんは、農家の方が、普通に化学肥料を使って、また虫や病気の予防のために農薬をかけて育てた「にんじん」なんです。・・・」とあった。

訂正後のバージョンは上記の文言は「すべて削除」となった。

■「農薬や化学肥料を使う通常のにんじんも、生産量を確保するうえでとても重要ですが、・・・」といった文言が入るなら、とてもよかったと思いますが、農薬を使って育てたにんじんに悪いイメージをもたれるものと気にしたのか、削除となった。これでは農薬や化学肥料を使って出荷している慣行農業の人たちの努力が報われない。

紙芝居は農薬と化学肥料を悪玉に仕立て、地球にやさしくないと
との悪いイメージを振りまく。その後、行き過ぎを認めたのか青
線部分を削除。

◎紙芝居の最大の問題点は、
通常の間行農業で生産され
た農産物がさも環境に悪く、
消費者が「選ぶべき対象で
はない」かのごとく伝えて
いる点だ。有機農産物も通
常の農産物も、安全性の点
で差はなく、どちらも人々
の食生活を豊かにしている。
間行農業を悪玉扱いする紙
芝居のストーリーにはそも
そも無理がある。



⑧

【店員に尋ねるシーン】と【2種類の「にんじん」】を並べ

は。ありがとうございます。
よくご覧になりましたね。

4本198円の「にんじん」は、農家の方が、普通に化学
料をやって、また、虫や病気の予防のために農薬をかけて
育てた「にんじん」なんです。

一方、こちらの袋に入った5本で398円の「にんじん」は
化学肥料は使わず、土の中に、牛や鶏のフンに、木の葉っぱ
なんかを混ぜて作った「たい肥」を入れて育てているんで
よ。

紙芝居が意図するものは何だったか

◎紙芝居は「高くても、地球環境によいニンジンを選びましょう」との言葉で終わる。つまり、

・有機農産物の**価格が高いこと、つまり生産性が低いことを公認した**ことになる。となると、国は価格の高い有機農産物を100万haでつくって、消費者に提供する計画。これが食料の安定確保になるのか。貧困をなくそうとするSDGsにも反するのではないか。

◎はたして、地球にやさしい作物を食べてください、というメッセージは消費者に受け入れられるのだろうか。現在の農産物でも十分に安全で、価格はリーズナブルで、環境によいはずだ。生産性の上昇は、少ない土地で多くの作物を生産するわけだから、森林の伐採防止・保護につながる。**生産性が低い有機農業ではたして森林は守られるのか。**

みどりの戦略でもうひとつ大問題がある

農水省の補助事業でつくられた高橋メアリージュンさんのインタビュー動画（約6分）。「**有機は美容、健康、環境によい**」との発言を農水省が公認した？**個人の体験です**との打ち消し表示はよくないとする消費者庁の考えに反するのでは

高橋メアリージュンさんの企画事業は農水の補助事業。この動画はどこまで環境保全といえるのかも疑問だ

農林水産省 補助事業

有機農業推進総合対策緊急事業

～有機農産物の販売・流通拡大支援～

01

有機農産物
新規取扱支援

02

有機農業の環境保全
に関する取り組み

03

有機農業事業者
マッチングセミナー

04

有機農産物に関する
調査レポート

有機農業の環境保全に関する取り組み





農林水産省インタビュー「有機農産物・農業の魅力」【ロングVer.】



マイファーム...
チャンネル登録...

チャンネル登録

👍 0



🔗 共有



化粧品にも有機がよい。明らかに行き過ぎ！

☰ YouTube JP

検索



農林水産省インタビュー「有機農産物・農業の魅力」【ロングVer.】

動画は「マイファーム」が製作。有機推進会社なら、監査役に元事務次官が天下りOKか

適格請求書登録番号	T8130001044447
代表者	西辻 一真（にしつじ かずま）
設立日	2007年9月26日
資本金	1億円
役員	代表取締役 西辻 一真 専務取締役 浪越 隆雅 取締役 石原 北斗、林 久美、北村 誠 監査役 谷 則男、本木 賢太郎（AGRI法律会計事務所代表）、末松 広行（元農林水産省 農林水産事務次官）
京都オフィス（本社）	〒600-8216 京都府京都市下京区東塩小路町607番地辰巳ビル1階



高橋メアリーさん interview

◎女優でモデルの高橋メアリージュンさんが「有機農産物の魅力」について語る。インタビュアーは農水省のお役人。

- ・「美容、健康、環境にいい」。個人の見解ですとの打ち消し表示が小さくみえる。美容によいことをうたえないことを知っていて、あえて打ち消し表示。悪質。

- ・「化粧品も有機。アイシャドー、口紅は食べちゃうので有機に」。ここでも有機が美容によいことを強調。

- ・サステナブルな生活に有機がよいというニュアンス。では、戦後70年の慣行農業はサステではなかったのか。人々の食生活を豊かにし、健康・平均寿命を引き上げてきたのは慣行農業。

- ・この企画が、農水省の補助事業で「有機農業推進総合対策緊急事業の一環として行われたこと。「有機農業の環境保全に関する取り組み」と題していろいろなセミナーが実施された。高橋さんもセミナーに登壇。環境保全とは関係ないことがたくさん出てくる。

- ・「マイファーム」が補助金を得て実施しているが、マイファームの役員に末松広行・元事務次官が天下り。有機推進会社なら天下りはOKなのか。¹⁴

②みどりの戦略のもうひとつ
の危うい点は何か

**オーガニックビレッジと
学校給食の有機化がもたらす危険な兆候**

2030年までに全市町村の1割以上をオーガニックビレッジ。 2025年までに100市町村でオーガニックビレッジ達成

V. 経済社会の多極集中化

1. デジタル田園都市国家構想の推進

(2) デジタル田園都市国家を支える農林水産業、観光産業、教育の推進

① 食料安全保障の確立に向けた、みどりの食料システム戦略など農林水産業の振興

i) みどりの食料システム戦略の実施

化学農薬・肥料の利用の低減や有機農業を推進し、生産段階における環境負荷低減の効果が消費者に的確に評価されるよう見える化を進める等、生産から消費に至る各段階の取組を推進する。

○ 新しい資本主義実行計画 工程表（抄）

2022年度		2023年度	2024年度	2025～2027年度
今夏	年末			
「みどりの食料システム戦略」の実施				
全都道府県の主要品目の産地の栽培暦を見直し		2030年までに ①化学農薬使用量（リスク換算）10%低減、 ②化学肥料使用量20%低減、 ③有機農業の取組面積2.4→6.3万ha		
有機農産物の生産・流通・消費を一体的に行うモデル産地を全国40産地以上で創出				
		2030年までに全市町村の1割以上をオーガニックビレッジとする		

23年6月、全国オーガニック給食協議会発足

🕒 2023/4/25

【お知らせ】全国オーガニック給食協議会が 設立されます

近年、急速に関心が高まっている「学校給食の有機化」を全国で実現していくことを目指して、多様な主体の協働による協議会を設立します。全国の多くの自治体、農業協同組合及び農業関係団体、生活協同組合及び流通、市民団体及び有志者（個人）の皆様、全国オーガニック給食協議会に、ぜひ、ご参画ください。

名称	全国オーガニック給食協議会
設立時期	令和5年6月
参加区分	自治体、農業協同組合及び農業関係団体、生活協同組合及び流通、市民団体及び有志者（個人）
活動内容	全国オーガニック給食フォーラムの定期開催

※各自治体視察研修、会員同士の連携が交流の場



学校給食オーガニック協議会。賛同団体は202
団体。GMやゲノム編集に反対してきた団体が多い

協同組合



宮城県
あいコープみやぎ



千葉県
いすみ農業協同組合



福岡県
グリーンコープ共同体



神奈川県
さがみ生活クラブ生協大和コモンズ



奈良県
生活協同組合コープ自然派奈良



兵庫県
生活協同組合コープ自然派兵庫



東京都
生活協同組合パルシステム東京



愛知県
生活協同組合連合会アイチョイス



東京都
生活クラブ まち・からきた



静岡県
生活クラブ生協静岡志太支部



東京都
生活クラブ生活協同組合・東京



静岡県
生活クラブ生活協同組合静岡 浜松支
部

オーガニックビレッジで起きること

◎オーガニックの推進でまず、学校給食がオーガニック食材になる。現場の教育は、当然ながら、「食の安全・安心はオーガニックで」という運動が広がる。農薬や化学肥料を使う農業では食の安全は達成できないという運動として広がっていく可能性が強い

◎これは同時に**バイオテクノロジーへの逆風**となる。

農水もみどりの戦略でゲノム編集などバイオテクノロジーを活用していくとうたっている、しかし、その一方で、学校給食の有機化を推進。まさに自己矛盾的な戦略ではないか。

オーガニック思想の浸透で何が起きるか

◎愛媛県今治市は、2006年、有機農業の推進、地産地消、食の安全（食育）を基本とする「食と農のまちづくり条例」を制定。これは、遺伝子組み換え作物の学校給食の使用禁止、栽培に対しては市の許可、交雑防止策の実施など、実質的な栽培禁止条例のなった。

◎これに対し、市民団体は、絶賛。「今治市は遺伝子組み換え輸入大国の日本における予防原則のトップランナー」（堤未果さんの「ルポ食が壊れる」）とエールを送った。まちづくり条例があれば、巨大な資金力と最新テクノロジー、バイオ技術をもつ外資の巨大企業をはね返せる。

◎実際に、2000年代前半に北海道はじめ、各地でGM作物の栽培を実質的に禁止する条例が次々に生まれ、GM作物の栽培は試験栽培すら進まない状況を生み出した。

メディアも有機化を好意的に報道するだろう

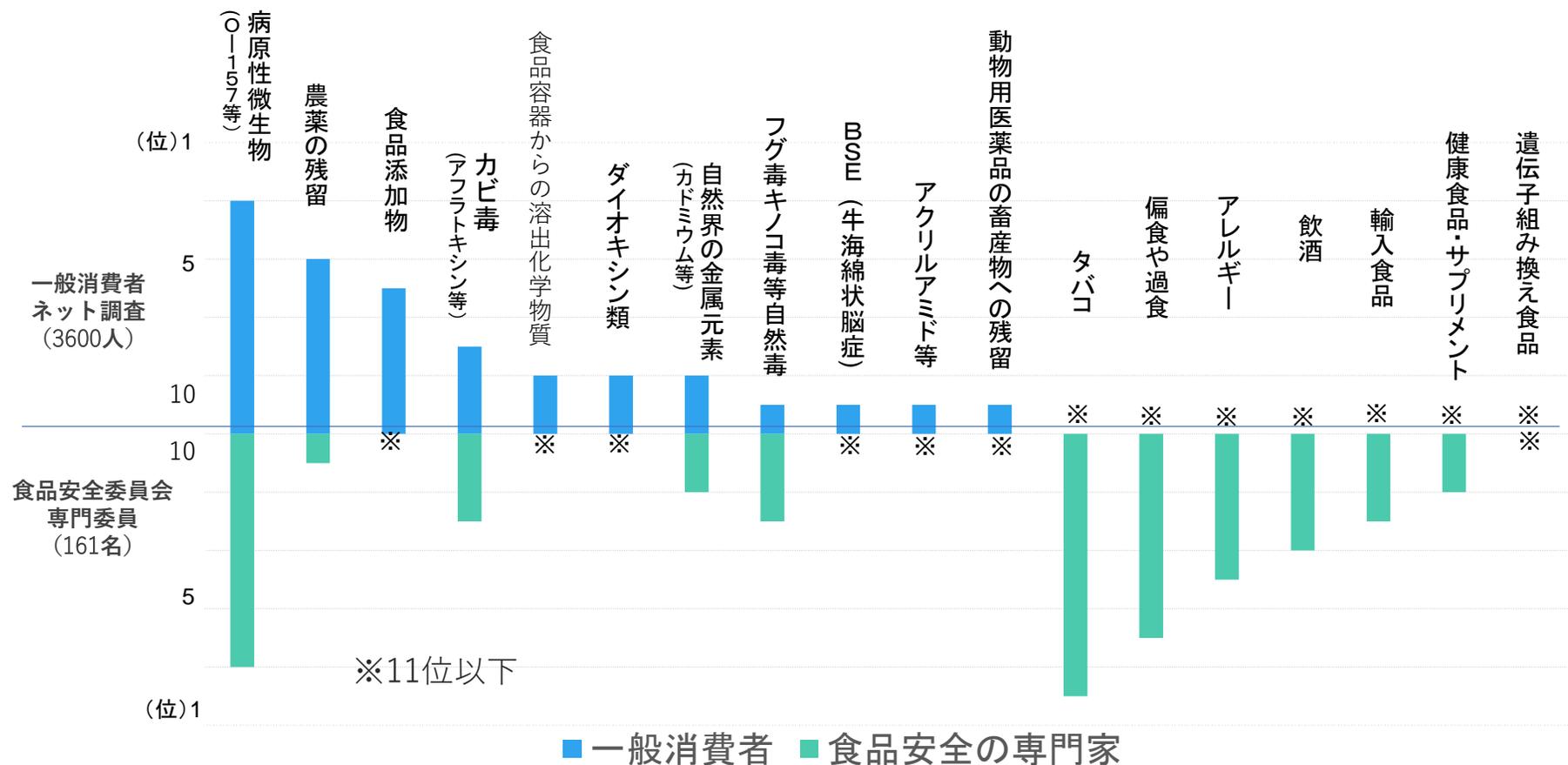
- ◎「化学肥料や農薬を原則使わない有機食材を給食に取り入れる動きが広がりつつある。2012年に環境保全型農業によるまちづくりを宣言した千葉県いすみ市は、有機栽培を行う農家を支援し17年10月に学校給食をすべて有機米に変え、昨年10月には給食費を無償化した」（東京新聞23年4月）。
- ◎有機農業の推進は、環境市民団体と有機農業推進団体と国が同じ側に立つことを意味する。
- ◎GM、ゲノム編集の推進に反対してきた市民団体と国が同じ仲間になる。国はゲノム編集は推進しようとしている。有機の推進いかんによっては、バイテク推進派の官僚が農水の中で負けてしまう可能性もある

何が問題なのか

- ◎有機農業を増やすことに問題はないが、それにともなって「農薬、化学肥料、GMやゲノム編集技術を使った農業が環境や健康に悪いかのごとく非科学的情報が流布すること
- ◎高橋さんのインタビューで分かるように、美容にもよいかのごとく怪しげな情報が一人歩きして、結果的に科学とは無縁の情報が伝わっていく
- ◎有機農業を強調したいがために、地球温暖化の問題を深刻にとらえすぎる。イノベーションで解決する方法もあり、じっくり考える時間はあるのに一刻の猶予もないかのごとくをのイメージ。
- ◎自国産業を無視した西欧追随の弊害
- ◎オランダをみよ。温暖化恐怖症に対する対策で牛を3割強制的に減らす。こういう恐怖政治がまかりとおる。

③有機の推進は
科学的な食のリスク感をゆが
めるおそれあり

健康影響で何に気をつける？



内閣府食品安全委員会資料より

一般人のリスク感

◎食品安全委員会の調査によると、専門家と違い、一般の人は健康に気をつけるべき項目として、残留農薬や食品添加物を上位に挙げる。学校給食の有機化運動は、こういうゆがんだリスク感を助長する可能性がある。

◎食品安全委員会や消費者庁は、福島原発事故の放射線も含めて、科学的なリスクミを懸命に進めているが、その一方で、農水省はこの動きと逆行する有機リスク感を進めている。同じ政府の中で一方は火消し、もう一方は火事を起こす役を果たしているのでは

④有機の推進は
こうしたバイテクの重要性を
低下させる側面をもつ

意外に知られていないが GM作物はSDG s に貢献

SDG s とは何か。「持続可能な開発目標」

・2015年に国連サミットで掲げられた17の目標。「**貧困や飢餓の撲滅**」「**栄養の改善**」「**持続可能な森林の経営と土地の劣化の防止**」「**生物多様性の維持**」「**あらゆる人の健康的な生活や福祉の確保**」「**地球温暖化の防止**」「**働きがいのある雇用と生産**」など。

SDG s は庶民が買える価格で食料がたくさん生産されることが大前提。

これこそGMが貢献

GM作物は実はSDGs（持続的な発展目標に貢献）

	特性	SDGs 的な付加価値
GM 作物	<p>農薬の使用削減</p> <p>単位面積あたりの収量増加</p> <p>労作業の省力化</p> <p>ウイルスに強い形質</p> <p>干ばつに強い</p> <p>害虫に強いトウモロコシやナス</p> <p>不耕起栽培とトラクター運転不要</p> <p>スギ花粉抗原をもつ稲</p> <p>ベータカロテン豊富な稲</p>	<p>地球温暖化防止</p> <p>CO2 削減</p> <p>生物多様性の増加</p> <p>小規模農家の収入増加</p> <p>地場産業の持続的発展</p> <p>森林破壊の防止</p> <p>土壌の保全</p> <p>化石燃料の節約</p> <p>貧困の撲滅</p> <p>スギ花粉症の抑制</p> <p>子供たちの失明防止</p>

不耕起栽培の魅力

◎除草剤耐性のGM大豆

- ・播種前の耕うんが不要になる。いきなり大地に種子をまける。大豆が成長したら、除草剤をまく。

■GMは**土壌の流失を防ぐ**。土壌を耕すとCO₂が大気へ逃げる。地球温暖化防止には土壌に**CO₂を閉じ込めていく**必要がある。GM大豆はそれを可能にする。236億kg（1560万台の車のCO₂排出量に相当）が排出されずすんだ（経済学者のグラハム・ブルックス氏）

ゲノム編集タイヤフグに 反対運動

**飼料効率の低下、生産性の上昇は
水産業に必須の条件**

ゲノム編集で「オンデマンド」の魚介類を作る

生産者のメリット

- ✓ 生産性の向上
- ✓ 省労力
- ✓ コストダウン

- 筋肉増量
- 高成長
- 耐病性向上

消費者のメリット

- ✓ 健康増進
- ✓ 美味しい
- ✓ 低価格
- ✓ 安全
- ✓ 低アレルギー
- ✓ 無毒化
- ✓ 食べやすい

- 機能性成分の増加
- 呈味成分の増加
- 生産性の向上
- 品質管理

ゲノム編集で「オンデマンド」の魚介類を作る

世界的なメリット

- ✓ 生産性の向上
- ✓ 省労力
- ✓ コストダウン

- タンパク質源の確保
- 天然資源の保護

国内のメリット

- ✓ 健康増進
- ✓ 美味しい
- ✓ 低価格
- ✓ 安全
- ✓ 低アレルギー
- ✓ 無毒化
- ✓ 食べやすい

- 高品質
- 海外製品との差別化

ゲノム編集育種の貢献

就労 生産者メリット

ト
安全性確保
安定性確保
就労時間の固定化

養殖魚 消費者メリット

ト
安定した環境で飼育
品質管理が容易

安全安心な魚

拡散防止 6次産業化

現地で加工
流通システムの整備
ト
トレーサビリティの確保

- 雇用確保
- 地域創生
- 資源保護
- 環境保全

みどりの戦略の危うい点は何か

- ①有機農業の推進で、農薬や化学肥料を使う慣行農業の重要性の認識を低下させる
- ②バイオテクノロジーの重要性、推進を遅らせる。GM作物の拡大はSDGsに大いに貢献してきたのに、それにブレーキをかける恐れがある。
- ③学校給食のオーガニック化で子供たち、栄養士など若い人たちの「食の安全観」「リスク感」にゆがみを生じさせる
- ④有機農業の推進は食料の確保をおろそかにし、食料安全保障を危うくする
- ⑤有機農業は本当にCO₂を減らすのかという学術的な議論が必要
- ⑥脱炭素は「待ったなし」の脅迫観念が恐るべき破壊的な政策を突如生み出す恐れ。オランダの牛30%削減はその典型

⑥すべては脱炭素のため
脱炭素信仰は絶対神か

神は自国の産業を破壊してまで、
脱炭素を達成しようとする。
おそろべき宗教ではないか

川口マーン恵美さんのレポート（22年9月19日プレジデントオンラインから）

- オランダの人口1740万人（2020年）。1200万頭のブタと、400万頭の牛と、1億羽の鶏。
- 政府は、2030年までにそれらの排出を50%削減するという目標を打ち出した。財務省の試算では、現在4~5万軒ある農家のうちの1万1200軒を廃業に、1万7600軒は規模を3分の1から2分の1に縮小しなくてはいけない。ファン・デア・プラス議員は、「わが国の農業は崩壊寸前のところに追い込まれている」と激しく警鐘を鳴らしている。
- 昨今のEUでは、すべての産業活動が、**温室効果ガスを出すか、出さないかで、善か悪かに分けられる**という傾向が顕著。それぞれの国には得意の産業分野があり、それを修正しようとするれば、従来の産業構造を根本から変えるほどの覚悟が必要となる。それにもかかわらず、**オランダ政府は自国の伝統産業ともいえる酪農や畜産を縮小しようとしている。**